

一般社団法人園芸学会平成 30 年度秋季大会シンポジウム

来る 9 月 22～24 日に鹿児島大学で開催される一般社団法人園芸学会平成 30 年度秋季大会において、下記の課題によりシンポジウムが開催されます。いずれも公開シンポジウムで、学会員以外の方も参加できます（参加費無料）。最先端の園芸学研究について広く知っていただく良い機会ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

日時：平成 30 年 9 月 22 日（土）13 時 30 分～17 時

場所：鹿児島大学 郡元キャンパス（〒890-0065 鹿児島市郡元 1 丁目 21 番 24 号）

I. 園芸作物におけるゲノム編集技術の開発と利用（公開シンポジウム）

会場：共通教育棟 1 号館 111 号講義室

コンビーナー：西谷千佳子（農研機構果樹茶部門）

1. ゲノム編集技術の基本原則と可能性

刑部 敬史（徳島大生物資源産業学部）

2. 植物ゲノム編集—トマト・イチゴのゲノム改変への応用

刑部祐里子（徳島大生物資源産業学部）

3. 果樹のゲノム編集で何ができるか

西谷千佳子（農研機構果樹茶部門）

4. 栄養繁殖性でありかつ四倍体であるジャガイモのゲノム編集と社会実装に向けて

村中 俊哉（大阪大院工学研究科）

5. ゲノム編集農作物の規制に関する世界の動向

田部井 豊（農研機構生物機能部門）

II. 収量や成分を自在にコントロールできる太陽光型植物工場

—オミクス利用による新世代栽培技術開発—（公開シンポジウム）

会場：共通教育棟 1 号館 121 号講義室

コンビーナー：東出 忠桐（農研機構野菜花き部門）

1. トマトの収量や成分をコントロールできる太陽光型植物工場を実現するための分野横断的な取組み

今西 俊介（農研機構野菜花き部門）

2. トマトの物質輸送特性を成立させるマイクロアーキテクチャ

高橋 宏和・中園 幹生（名古屋大院生命農学研究科）

3. AI 技術を利用したオミクスデータの高度統合による効率的な鍵因子特定法

寛 雄介（農研機構野菜花き部門）・嶋田幸久（横浜市大）

4. トマトの放射状裂果に関与する内在因子と発生軽減剤の開発

佐野 大樹（岡山農研）

5. 物質生産に基づいたトマトの生育予測・栽培支援ツール

安 東赫・東出 忠桐（農研機構野菜花き部門）

Ⅲ. 花と果実におけるカロテノイドの蓄積制御（公開シンポジウム）

会場：共通教育棟 3 号館 311 号講義室

コンビーナー：大宮あけみ（農研機構野菜花き部門）

1. ナス科野菜の果実におけるカロテノイドの蓄積制御
永田 雅靖（農研機構食品部門）
2. カンキツ果実におけるカロテノイドの蓄積制御
加藤 雅也（静岡大農学部）
3. カンキツ果実におけるカロテノイド代謝遺伝子の転写調節
島田 武彦（農研機構果樹茶部門）
4. パインアップル果肉におけるカロテノイドの蓄積制御
奈島 賢児（日本大生物資源科学部）
5. 花卉のカロテノイド蓄積におけるカロテノイドエステラーゼの役割
岸本 早苗（農研機構野菜花き部門）

Ⅳ. 新たな青果物品質管理システム構築に関する最近の話題と展望（公開シンポジウム）

会場：共通教育棟 3 号館 321 号講義室

コンビーナー：椎名 武夫（千葉大院園芸学研究科）

1. 低温高湿度貯蔵のルネッサンス
椎名 武夫（千葉大院園芸学研究科）
2. ガス利用による青果物の品質保持
樋元 淳一（酪農学園大農食環境学群）
3. ストレス処理による青果物の品質保持
山内 直樹（山口大院創成科学研究科）
4. 低温遭遇による果実の成熟誘導とその利用
久保 康隆（岡山大院環境生命科学研究所）
5. 青果物の機能性表示食品制度への対応とその課題
杉浦 実（同志社女子大生活科学部）